

# 宗教者9条の会・大分

34

●発行：宗教者9条の会・大分 ●〒879-5102 由布市湯布院町川上 3561 見成寺 TEL 0977-84-2257 FAX 0977-84-5203

## 「まさにその日から」

日本キリスト教団 津久見教会 野口春夫

2011年3月11日（金）、その日、私は佐賀地方裁判所での玄海原発「MOX燃料差止請求事件・第3回公判」に傍聴人として参加していた。世間では「プルサーマル裁判」である。危険なMOX燃料を原発の燃料として、すこしではあつても絶対使わせない（差し止める）、裁判である。連れ合いはこの裁判の原告団130名の一人であり、私はサポーター会員160名の内の一人である。原告であれ、サポーター会員であれ玄海原発の

日本で一番古い1号機（稼働36年）を初めとする全原発の事故を心配する気持ちはみな同じでした。

今回の公判の論点は、「燃料棒内圧評価値」という、文化系出身の私には理解が難しいものであったが、なんとか、九州電力は、国の原子力安全委員会の中で説明した、燃料棒の内圧安全度（MOX燃料の事故・危険度回避のための基準値）より玄海原発の方が危険数値なのにそれで良いのだと主張しているこ

絶望的なのは  
今の現状ではない  
現状に対する  
対処の仕方だ

### 日本国憲法 第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

と、そして原発を作った主体である三菱重工の商業機密なので公開できない数値がある」と逃げている事が分かった。



裁判後の原告側報告会の途中で、ノートパソコンでインターネットを見ていた原告の一人が「福島、山形等東日本で地震があり、津波が来ていること、東京電力福島原子力発電所が事故を起こす危険性があるかもしれない」と指摘した。それも自然発生的に、大声でなされた。それを聞いた原告・サポーター等が一緒に考えたことは皆同じで「これから東京電力福島原子力発電所の事故で大変なことが日本中で起こるのではないか」

ということであった。また共通した恐怖感も持った。指摘されたとおり、次の日から福島原発は、ご丁寧にどの原発も、暴れ回り、悲惨な状況が明らかになり始めた。内容については、この「宗教者9条の会・大分ニュース32号」で小坂さんが、「33号」で河野さんがすでに書いているので、そちらに任せるとして、重複は避けます。津波のすさまじさも、原発の恐ろしさも多くのメディアの報道で知られたと思いますがひどいものでした。同時に原発事故の報道管制のことをすぐに考えた悪知恵にたけた人もいたようです。何日かすると報道が画一化されて、事故の被害を小さく、小さく見せようとするものです。事故をそのままではなく、わざと過小に見せようと報道をしているな、と思ったのは私一人だけではない。あるまい。「放射線レベルは急性の放射線障害が出るほどではなく影響は軽微」という

騙しの文言を政府や東京電力などは何万回使ったのであるとか・・・。「これは天の罰だ」と言い始め、慌てて取り消した都知事の話は唾棄すべきものとしても、彼が自分の発言を取り消した理由はいつもの無責任な発言ではすまされないほど、福島原発事故が起こしつつある、悲惨な状況に気がついたからであろうと思う。早い時期に「何十年も故郷を離れなければならない人々が出るかもしれない」と言った発言を取り消すように要求された一国の首相。―今では「何十年」などは小さな数字である―原発事故で強制避難させられた地区を視察した後「ゴーストタウン（死の町）」を見てきた」と言つては、「そのような言葉を使うな」と脅され、非難を受けた正直な政治家もいた。躍起になって事故の被害を少なく見せようとする多くの「演出家」が跋扈した。誰がその様なことを言わせているのかな、とか。

裏で糸を引いているのは誰なのかと思う。政府？東京電力？経済産業省？自民党？民主党？「5者暗黙の了解？」、原発推進で儲ける人？いろいろ考えたがズバリ正解は「原発で利益を得る人」であろう。15年戦争中に行われた「報道管制」がこの形であつたのではないかと推測できる。戦闘に負けていても、「撤退している」とか表現させたものと同じやり方である。

何か命を守るために自分もしなければと思い、6月28日に、株は持たないけれど九州電力の株主総会に応援に行く。そこには福島から避難して来て、湯布院に住んでいる親子（母子）とデモで知り合いになり、大分県からという共通点を見つけ出し単純に嬉しく思った。総会に出た株主からの報告によると、脱原発株主の質問、要求については会社は少しも真剣に考えていなくて、議事を進めたという。九電の株価は福島原発事故の影響で下がっているというのに。あれだけの大きな原発事故をどう思っているのか、と怒りがこみ上げる。

九州電力本社前での「座り込み」にも何度が参加する。そこでの九州電力との話し合いでは社長は「福島原発事故のことは全然知りません」ととぼける。子どもの頃福岡市中央区に九電記念体育館があり、そのそばにあつた九電の「エネルギー館」で原発の模型を見せられ、原発の「安全神話」を脳にすり込まれた自分を「バカだつた」と反省するばかりである。これからも座り込みに来るだけ参加しようと思う。

8月15日に市民・仏教者・キリスト者が主催する『8・15平和を建設する集い』（於：福岡渡辺通教会）にも参加。集会後のデモコースは九州電力本社への往復デモであつた。暑い中ではあつたがデモ参加者の人数は近年まれにみる多さであつた。連れ合いはその帰りに「急性虫垂炎」（いわゆる盲腸炎）に罹り、次の日緊急手術を受けた。につつき九州電力株式会社社め。

東日本大震災については「阪神・淡路大震災」の教訓が今もある。（原発事故は津波ではなく地震で起こっている）「阪神・淡路大震災」に遭つた後、大分に移住して住んでいる人に直接聞いた話としては、震災後うまく立ち回って蓄財した人、その他の人との経済格差がひどくなること、自死者が多く出るということである。もう福島などで起きているが、支援金、募金の行く末を監視し、自死者をなくすのが課題である。しかし、とつとつに自死者は今年も3万人を超えているのは残念なことである。

福岡県に長く住んだ者として思い出す歌がある。大牟田の三井三池炭鉱三川鉱（坑）で、1963年（昭和38年）経営合理化から保安設備を手抜きしたため炭塵爆発が起こり、458名の人命が一度に奪われた、一命を落とさなくても、事故でけがをして、その後遺症のため苦しんだ人も多数いた。その頃、炭鉱労働者の間で歌われていた歌の歌詞は次のものであつた。

「地の底から地のそこから  
怒りが燃え上がる、この切り羽（石炭を切り出す最先端）で、この切り羽で仲間は息絶えた。金のためには人の命を奪い去る奴らに怒りが燃える。」

福島原発事故は一度に多数の人の命は奪つてはいないが、これから先何十年と、真綿で首を絞めるように、癌等で人を殺すのではないかと思う時、東京電力はそれ（三井三池資本）よりもっと大きな罪を犯しているのではないだろうか。

ともあれ私たちには、行動すべき課題が増えた、天に召されるまで付き合つて行かないといけないのかな？

## 現代文明の崩壊？

日野詢城

2011年これほど世界の情勢が揺れ動いた年があったであろうか。くすぶり続けていたアフリカの民主化運動は独裁者を排除。次々に民主化運動はひろがり極めて大きな変化が起こったのであるが、未だ不安定な状況下にあることは変わりない。気掛かりになるのは資源を巡る大国のうごきが背後にあることだ。

私たちのくには3月11日の「東日本大震災」。津波の被害や原発事故など、未曾有の重大事故がおり、行く先はまったく見えてこないと言っているのだと思う。津波の被害については一応、復旧・復興というかたちで未来像を描くことが出来るのであるが、福島原発事故について12月17日、政府は「収束宣言」を出したが、事態は一つ変わっていない。破壊された1号機から4号機の建て屋の中がどうなっているのかの確認

すら取れていないのが現実である。

## ※ 開国という名の侵略史

今から150年ほど前になるが、幕藩体制が大きなほころびを見せていたところに「黒船の来襲」。西欧の格闘の文明を見せつけられた。幕府の立て直しか新しい国作りなのかで小競り合いがあり、維新という形で日本は「統一国家」を樹立。開国という名で、列強大国と対峙する道を選んだ。廃藩置県の3年後には1874(M7)台湾出兵。国内では開拓の名でアイヌに移住を迫り、今後増えるであろう戦死者のための神社として東京招魂社を靖国神社と改称したのが1879年である。89年(M22)『大日本帝国憲法』を發布、翌年「教育勅語」が制定され、5年後に日清戦争という流れになっ

ている。その10年後に日露戦争、様々な形で韓国の支配権を強め1909年(M42)には韓国を「併合」、徹底した植民地支配を始めアジア支配の拠点を作る。…そして中国東北部に「満州国」を建国、中国全域を支配下に置くことをにらみ15年戦争を繰り広げ、中国を拠点にアジア全域に支配の手をのばすことになる。70年前のパールハーバーはその延長線上にあり、1945年、広島・長崎の原爆投下で敗戦となり、明治以降の開国史は一応の終結を向かえることになった。

## ※ 文明開化という

美名のもと

明治の始めのころ「散切り頭をたいてみれば文明開化の音がする」という戯れ唄が流行ったと言う。『文明開化』で目指したものは「世の中が開け、精神的にも物質的にも豊かな生活が開かれる」ということだが、国内では西欧風

な「はいから」が流行るとともに、「野蛮なものを廃絶し、百般の事物を整える」ということで、アジア諸国の文化を野蛮なものとし、アジアの近代化を推し進めるという正義の名の海外侵略が始まるわけである。そこには「文明」という言葉のトリックがあったように思う。野蛮の反対語が文明というトリック。野蛮を廃し文明を開くことは正義であり日本の使命だと…。「鎖国」で長い間海外の詳しい事情を知らなかった日本、異なる文化そのものを「野蛮」と決めつけそれを排除してきたのである。



## ※ 文明と文化

紛れもなく今は「現代文明」の絶頂期にあるのだと思う。明治からの流れは1945年の敗戦で完全に流れを絶った

かのように見えたのだが、戦後の復興はアメリカの支配の元に行われ、本質的には「文明の再構築」ということになった。

文化と文明はどう違うのかを辞書で調べると『広辞苑』で文化は「衣食住を初め技術・学問・芸術・道徳・宗教など物心両面にわたる生活形成の様式とその内容」とある。多様な民族・国家にそれぞれの文化があり、その文化は長い間に醸成されてきたという特性を持つ。

それに対して文明は「人知が進んで開けた世の中。特に生産手段の発達によって生活水準が上がり、人権尊重と機会均等などの原則が認められているような社会、つまり近代社会のような状態」とあります。そして野蛮に対するものという意味が加えられている。文化には習俗を含む宗教性が強く生活基盤となっていくことに対し、文明は「人知」の進歩を基盤とするという違いがある。その故に宗教や習



俗が古い考え方だと廃されることとなり、「新しいことがそのまま良いことだ」ということになったのである。「日進月歩」という言葉があるが、経済の構造を含め、前に進む以外に生き残る道はない。止まれば倒れるという構造となつて少なくとも表面は現代文明のピーク時に立っているということになる。

## ※「ずれ」ばかりが目立つ復興対策

被災者が求める支援と政府が示す具体策に大きなずれが見え始めた。津波に対して、さらに大きな津波が来てもそれに耐えられる構造物を作ろうという政府の考え方にたいして、「これまでの生活が一日も早く取り戻せることが大事なのだ。災害に対しては避難の道筋が立てられればそれでいい」という住民の意見の食い違いである。復旧か復

興かということ、文化か文明かの違いが出ているように思える。

さらに深刻なのは福島原発事故を巡る将来像である。廃炉に向けての作業が少なくとも30年から40年かかる。その経費についてはまったく未知数であるが「国が責任を持つ」という。当事者である東電はどんな責任を持つのかは明確にされていない。被災者の保障についても国が責任を持ち、「除染」によって福島を復興するというが、現場はそんな甘いものではない。事故の処理や廃炉のことを考えると、それだけで国が減じるほどの負担が待っている。

## ※ 私たちは

### この場を生きる

福島の人たちにとって、ベターでもベストでもない、そういう状況を生きている人が多くいる。そこ

を退避すべき否かで悩んでいるのであるが、そんな中で「私たちはここで生きていきます」と宣言した人たちがいる。結果としてその宣言が守り続けられるかどうかは状況の変化次第でもあるが、今、「ここに立つ」と宣言することで生きていくことの足場を見いだそうとしているのだと思う。ここで生きると決めることで被曝の問題と向かい合う気持ちの整理もつくのだと思う。決して楽な道ではなく、良いことなど何もないかもしれない。それでも故郷を捨てないという覚悟が何かを生み出し、守り続けられるものも多いのだと思う。一回限りの人生、子どもと共に生きる母親の選択として「それは間違いだ」とはいえない。マルカバツかが総てではない。戸惑いの中に生きる人たちの中で、「この場を生きます」と宣言した人たちに今、私はエールを送りたいと思う。

## 年会費納入・カンパを よろしくお願いします。

### 宗教者9条の会・大分事務局

〒879-5102

由布市湯布院町川上 3561 見成寺

TEL 0977-84-2257

FAX 0977-84-5203

年会費 3,000 円

郵便振替口座 01720-1-111731

## 編集後記

● 22日米原子力規制委員会が、新型原子炉の設計を許可したという。スリールマイルアイランドの原発事故以来、30年間封印してきた新規の建設を今許可したというのは何故なのか！メンツなのか利益のためなのか？期待されているのは廃炉のための技術と投資だと思ふのだが。

● やらせ問題で「九電・報告書再提出せず」という見出し。報告書を提出した段階の国の対応と今のズレは何処から？会社の大株主が電力会社だからメディアもダメだというのがあったら、国民や読者はどうなる？

● ハツ場ダムの建設中止は政権交代の象徴でもあったと思うが、建設再開というのでは、旗を降ろしたボールのようなもの。何処の国の印なのか何も解らない。

● 福島の親子から、クリスマスカードが届いた。和尚様へという宛名がかわいい。ふとジョンレノンの「イマジンを思い起こし、「レット・トゥビー」を思い起こした。絶望的なのは、厳しすぎる現状ではなく、そのような現状に対する国や企業の対処の仕方が絶望的なのだ。宗教者に求められる仕事はここにもある。良いお年を（詢）

## 世話人（◎代表者）

無着 成恭 曹洞宗僧侶  
酒迎 天信 日本山妙法寺  
◎日野 詢城 大谷派見成寺  
林 正道 大谷派安養寺  
西郡 均 本願寺派誓岸寺  
古谷 聡 大谷派蓮照寺  
佐々木淳二 大分メソヂスト教会  
掛橋 泰定 日蓮宗妙栄寺  
大在 紀 本願寺派長光寺  
野口 春夫 日本基督教団津久見教会  
永井 一匡 アライアンス大分リスト教会